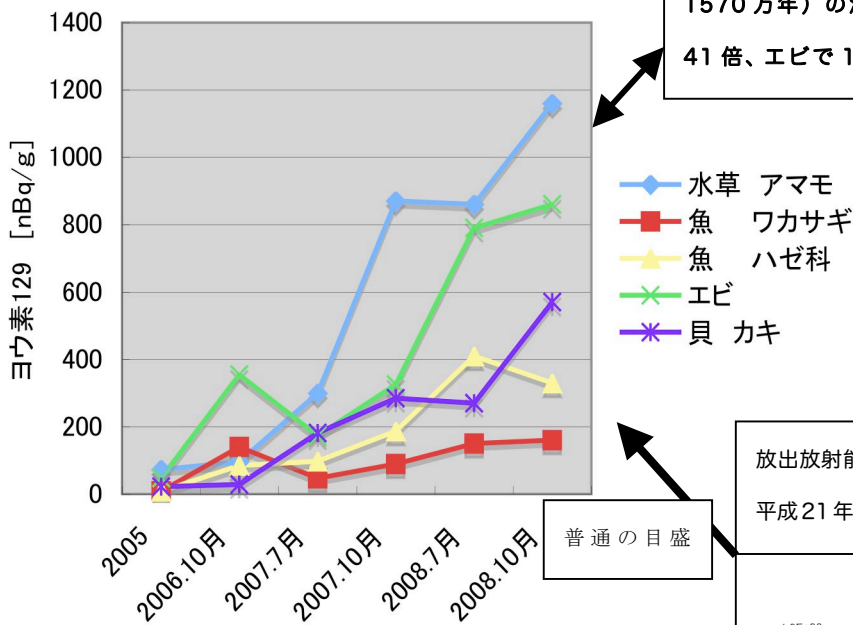


六ヶ所村尾駁沼の生物中ヨウ素 129 が急上昇

(財) 環境科学技術研究所報告書より

濃度 [nBq/g]	2005	2006.10月	2007.7月	2007.10月	2008.7月	2008.10月
水草 アマモ	73	96	299	870	860	1160
魚 ワカサギ	8	140	47	89	150	160
魚 ハゼ科		85	98	187	410	330
エビ	48	355	173	325	790	860
貝 カキ	22	29	181	285	270	570
植物プランクトン	138	33		2310		11500
藻類		710	4880		13600	

尾駁沼生物ヨウ素129経年変化その1



05→08年比較：尾駁沼のヨウ素 129 (半減期 1570 万年) の濃度は水草で 16 倍、魚で 20~41 倍、エビで 18 倍、貝で 26 倍に増えました。

これでも「概ねこれまでと同じ水準であった」
(青森県放射線調査報告書)
と言えるのでしょうか。

放出放射能環境分布調査報告書平成 20 年度
平成 21 年 3 月 p425 の表示 対数目盛に注意

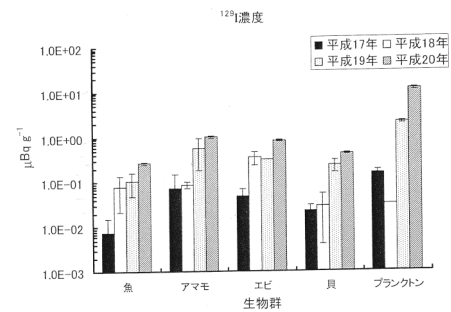
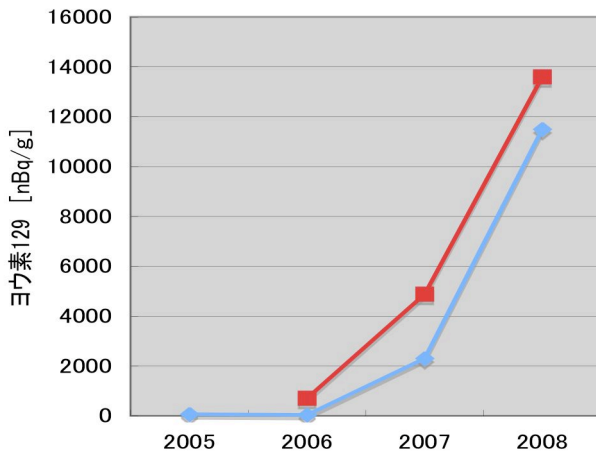


図 4-2-23 尾駁沼における生物試料中の ¹²⁹I 濃度

尾駁沼生物中のヨウ素129濃度その2



プランクトン
藻類

プランクトン 06→08 約 380 倍
藻類 06→08 約 20 倍 増加

09.9.16-18 東北大で行われた原子力学会
において、環境科学技術研究所の研究者
が汚染の事実を認め報告しています。

【アクティブ試験中の六ヶ所村大型再処理施設周辺における水圏環境中のヨウ素 129 濃度】

「・・・、多くの尾駁沼生物中ヨウ素 129/ヨウ素 127 同位体比はバックグラウンドレベルよりも約 1 桁高く、泊海域 (7 月) と八戸海域 (9 月) で採取された魚でも約 1 桁高くなった。尾駁沼の湖水、湖底堆積物及び生物、また沿岸海域の一部の魚におけるヨウ素 129 の上昇は再処理工場からの放出ヨウ素 129 による影響と考えられた。」

(三陸の海を放射能から守る岩手の会まとめ 09.11)